

平成21年11月26日

生駒市議会議長 中谷尚敬 殿

都市建設委員会委員長 白本和久

委員会調査報告書

当委員会で調査した事件の調査結果について、生駒市議会会議規則第107条の規定により、下記のとおり報告します。

記

- 1 派遣期間 平成21年10月28日(水)～29日(木)
- 2 派遣場所 神奈川県横浜市及び東京都国分寺市
- 3 事 件 (1) 都市計画道路網の見直しについて
 - ① 都市計画道路網の見直しについて
 - ② 国分寺都市計画道路3・2・8号線沿道まちづくり計画について
- 4 派遣委員 白本和久、谷村淳子、稲田欣彦、酒井隆、井上清、有村京子
- 5 概 要 別紙のとおり

別紙

視察先	神奈川県横浜市
施策等の名称	都市計画道路網の見直し
視察の目的	<p>奈良県では、都市計画道路の見直しが検討されており、生駒市も、県の見直しに沿って検討していかなければならない状況の中で、他市にはない横浜市独自の「都市計画道路網の見直し素案」策定に至るまでの流れ、市民との合意形成、見直しに伴う課題等を参考とするため、視察を実施した。</p>
施策等の概要	<p>横浜市では、都市構造・社会情勢の変化に適切に対応した道路ネットワークとするため、平成16年から見直しを進め、平成20年5月に「都市計画道路網の見直し素案」として公表された。その間、パブリックコメント・市民アンケート等で市民意見の把握に努められている。</p> <p>市内の都市計画道路は、総延長689km、そのうち未着手は196km。昭和40年代に多くの都市計画道路が決定されたが、見直しは今回が初めてで、都市構造や社会状況の変化に適切に対応することを目的に実施された。未着手196kmのうち、71路線を6視点、18評価項目で見直しを図り、191kmを整備することに決定された。</p> <p>現在、全市的に見直しを図り、変更、廃止、追加の各路線について都市計画手続きを進められている。</p>
考察	<p>(本市施策等への反映の考え方など)</p> <p>都市計画道路網、生活幹線道路網の見直しについては、将来を見据えた上で、既存道路の有効活用も考慮して存続・変更・追加・廃止の取り扱いを、市民に分かりやすく説明していくことが重要である。</p>
委員の意見等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 整備効果の高い路線を選択し、集中的に事業を実施しているなど、早期に事業効果が発揮できるように取り組んでいるのは、素晴らしい。 ・ 道路整備率が約六割と、他の大都市と比較してみると非常に遅れているのが意外であった。 ・ 生活幹線道路の整備計画は整備まで60年計画という、60年後の人口動態や社会情勢を見据えた視点、安全安心のまちづくりの観点、まちづくりの理念とか将来像が見えないのは残念。

視察先	東京都国分寺市
施策等の名称	国分寺都市計画道路3・2・8号線沿道まちづくり計画
視察の目的	国分寺市では、この都市計画道路に関する「沿道まちづくり計画」の推進方法や、地域住民を巻き込んで、都市計画道路をまちづくりに生かそうとする、他市にはない先進的な取組を今後の生駒市の取組の参考とするため視察を実施した。
施策等の概要	都市計画道路3・2・8号線は、多摩地域の南北主要5路線の1路線であり、事業主体は、東京都である。全長約26キロ、道路幅員36m～43mである。市は、この都市計画道路を市民参加と協働による利活用について検討され、平成18年に策定した「国分寺市まちづくり条例」に基づき、この都市計画道路の整備に当たっては、道路用地の端から概ね100mの範囲、面積にして約58haについて、地域住民、行政、学識経験者等とともに、沿道まちづくりを検討する「沿道まちづくり推進地区」に指定し、全体協議会、ブロック検討会を組織し、「沿道まちづくり計画」を策定されている。この地区の住環境や生活環境の向上をすることで、ひいては市全体の活性化を図ることを目的とされている。
考察	<p>(本市施策等への反映の考え方など)</p> <p>東京都が、積極的に国分寺市と連携して、都市計画道路をまちづくりに生かしていこうと整備を進めている。担当課長は、都から出向されており、用地買収などの経費についても、都が負担しており、奈良県では、考えられないことである。しかし、県と市が連携して作業をしていくのは、「学研高山地区第2工区のまちづくり」の参考になると考える。</p> <p>都市計画道路3・2・8号線の整備に当たっては、都の地元説明会に加え、市が独自に詳細を説明する説明会を認可まで、計6回、19日間実施され、認可後は、各地区に対して計180件の説明会を実施され、担当課の苦勞が伺えるが、おかげで全体協議会やブロック検討会の組織強化につながったと考えられる。</p> <p>また、昭和30年代の都市計画道路の決定に際し、市内の重要な史跡である国分寺境内に都市計画道路を通すこととしたが、現在、史跡の保存のため、廃止又は変更の検討を進められているが、もともと史跡があることが分かっている決定された経緯があることから、取り消しは難しく、変更するにしても、住民からの賠償問題など、周辺地域との調整が非常に難しいとのことである。</p>

委員の意見等	<ul style="list-style-type: none">• 実際に整備された隣接市の都市計画道路等の現地視察は、道路の将来像をイメージでき、有意義だった。• 生駒市においては、用地買収に、多大なコストを要するが、元々の道路事情が悪く取り組みが遅れていたため、今後の市政の大きな課題となっていくであろうと考える。• 隣接市の都市計画道路の現地視察をし、生駒市にはないような幅員の広い大きな道路ではあったが、沿道の民家に対する騒音防止に配慮した「二層式低層舗装」を採用し、民家の車庫入れに配慮した「副道」を設け、緑地も広く設けるなど、市民生活に密着したアイデアが生きていた。
--------	---